

令和3年12月遠野市議会定例会会議録（第4号）

令和3年12月8日（水曜日）

主 査 多 田 倫 久 君

議事日程 第4号

令和3年12月8日（水曜日）午前10時開議

- 第1 一般質問
 第12 議案第106号 令和3年度遠野市一般会計補正予算（第6号）

本日の会議に付した事件

- 1 日程第1 一般質問（佐々木僚平、瀧本孝一議員）
 2 議案第106号 令和3年度遠野市一般会計補正予算（第6号）

出席議員（18名）

- | | | | | |
|----|---|-----|-------|---|
| 1 | 番 | 小 松 | 正 真 | 君 |
| 2 | 番 | 佐々木 | 恵美子 | 君 |
| 3 | 番 | 菊 池 | 浩 士 | 君 |
| 4 | 番 | 佐々木 | 敦 緒 | 君 |
| 5 | 番 | 佐々木 | 僚 平 | 君 |
| 6 | 番 | 小 林 | 立 栄 | 君 |
| 7 | 番 | 菊 池 | 美 也 | 君 |
| 8 | 番 | 萩 野 | 幸 弘 | 君 |
| 9 | 番 | 瀧 本 | 孝 一 | 君 |
| 10 | 番 | 多 田 | 勉 | 君 |
| 11 | 番 | 菊 池 | 由 紀 夫 | 君 |
| 12 | 番 | 菊 池 | 巳 喜 男 | 君 |
| 13 | 番 | 照 井 | 文 雄 | 君 |
| 14 | 番 | 荒 川 | 栄 悦 | 君 |
| 15 | 番 | 安 部 | 重 幸 | 君 |
| 16 | 番 | 新 田 | 勝 見 | 君 |
| 17 | 番 | 佐々木 | 大 三 郎 | 君 |
| 18 | 番 | 浅 沼 | 幸 雄 | 君 |

欠席議員

な し

事務局職員出席者

事務局 長 朝 倉 宏 孝 君

説明のため出席した者

- | | | |
|--|---------|---|
| 市 長 | 多 田 一 彦 | 君 |
| 副 市 長 | 鈴 木 惣 喜 | 君 |
| 総務企画部長
兼新型コロナウイルス対策室長 | 鈴 木 英 呂 | 君 |
| 健康福祉部長兼健康福祉の里所長
兼地域包括支援センター所長 | 菊 池 寿 | 君 |
| 健康福祉部医療連携特命部長
兼総務企画部新型コロナウイルスワクチン接種対策室長 | 佐々木 一 富 | 君 |
| 子育て応援部長
兼総合食育課長 | 磯 谷 洋 子 | 君 |
| 産 業 部 長 | 阿 部 順 郎 | 君 |
| 環境整備部長
兼まちづくり推進課長 | 奥 寺 国 博 | 君 |
| 会 計 管 理 者
兼 会 計 課 長 | 鈴 木 純 子 | 君 |
| 消防本部消防長 | 三 松 丈 宏 | 君 |
| 市民センター所長 | 新 田 順 子 | 君 |
| 市民センター多文化共生・本の森特命部長 | 石 田 久 男 | 君 |
| 教 育 長 | 菊 池 広 親 | 君 |
| 教育委員会事務局教育部長
兼学校教育課学校総務担当課長 | 伊 藤 貴 行 | 君 |
| 選挙管理委員会委員長 | 菅 沼 隆 子 | 君 |
| 代表監査委員 | 佐々木 資 光 | 君 |
| 農業委員会会長 | 千 葉 勝 義 | 君 |

午前10時00分 開議

○議長（浅沼幸雄君） おはようございます。
 これより本日の会議を開きます。

日程第1 一般質問

○議長（浅沼幸雄君） 日程第1、一般質問を行います。

順次質問を許します。5番佐々木僚平君。

〔5番佐々木僚平君登壇〕

○5番（佐々木僚平君） 改めて、おはようございます。

日本共産党の佐々木僚平です。初めて新市長に御質問させていただきますが、その前に一言。新市長御就任おめでとうございます。よろしくお祈りします。

今年も残り少なくなりました。どこでもコロナウイルスに悩まされた1年でありました。

最近岩手では、コロナ感染者がゼロの日が続き、やっと日常に戻ることができると安心していました。

しかし今度は、オミクロン株という新たな変異株が、アフリカ南部ナミビアから帰国した男性外交官がウイルスの感染者と分かり、そのオミクロン株は、南アフリカなどで確認され、ヨーロッパを中心に広がり始め、この新たな変異株により安心ができない日がまた続くことになると思います。

そして政府からは、当面この年末までとはいえ全ての国の外国人に対して、新規入国禁止が出されました。

それでは、一般質問に入らせていただきます。

昨日、一昨日とほとんどの方に、同僚の質問で市長の答弁に重なる部分があると思います。御容赦ください。

前の定例会で少し取り上げましたが、引き続き、大項目「コロナ禍における支援対策について」一括質問形式で何点かに分けて伺っています。

まず最初の質問、農家に対する持続化給付金についてです。

日本の食糧や農業・農村の問題、危機状況に置かれていると思います。それは、2000年以降の20年間で、農業の担い手が234万人から140万人に減り、そのうち42パーセントが70歳以上の高齢者といわれます。また、農地の減少も進んでいます。このような状況は、遠野においてもそっくり同じようなことが言えると思います。人ごとではありません。恥ずかしながら我が実家の現実も、そのとおり休耕地になっております。友人の親戚の田畑を見せられましたが、原野化され、手がつけられない状態でした。彼は、「子どもがいるが遠野に帰ってくるつもりはなさそうだし、叔母1人では何ともならない、この地域はまだまだこんなもんじゃない」このように話していました。

国連が2019年から家族農業の10年とするなど、国際的には持続可能な世界、いわゆる「SDGs」に向け、農政の転換が大きな流れになりつつある我が国の農政を大本から転換し、大小多様な家族経営が安心して農業に励めるようにする、食の安全安心を確保するなど、農林漁業と農山漁村の再生に全力を尽くすと述べていますが、全くそのとおりでと思います。

そもそも1999年制定の食料農業農村基本法には、受給率の向上は、生きるために1日も欠かせない基本的な物質と、どこの国でも戦略物資として位置づけています。いわば農政の憲法とも言える基本法だと思います。それが今は食料6割が外国に依存しています。

この基本法に基づき目標50パーセントを決めてから低下の一途であります。

安ければ外国からと、国内農業を縮小し、TPP参加で巨大な輸入自由化へと走り出し、先進国最低の食料自給率38パーセントまでとなっています。

これからは外国に依存せず、地域内で生産して消費する、これが一番大事なことだと思います。

それにはもちろん、さまざまな工夫した取り組みが必要です。

昨日、一昨日に素晴らしいヒントが隠されているように聞きました。規模拡大や効率的な農業だけ追求してきた農業政策から、家族農業はもちろん、意欲のある全ての農業者への支援こそ、皆さんが待っている政策ではないでしょうか。

私は小さい頃、年寄りの親父の子どもなのですが、「政治とは、まんまいっぱい腹いっぱい食べること」と、これが頭から離れません。今は米を作っても食べれない、高くて古い古米から食べてるといような方もいます。

農業を基幹産業と位置づけている当市においても、多くの家族経営体による農業が担い手不足や高齢化が進み、さらにここにコロナという魔物、また遠野においては厄介なシカまでがやってきて、特に米農家は2年続きの米価下落、

このようになり、また野菜農家、さらにリング農家までシカや霜の被害にあっています。「収入が落ち込み生活が苦しい」このように訴えています。

それでも農家の皆さんは、朝から晩まで一生懸命働いています。知り合いの農家の方は、「飲食、家賃補助、宿泊等の給付金等の支援については分かっているが、農家に対する支援策については、去年暮れになっても農業の減収に対して持続化給付金があることを知らなかった」このような人が結構いました。また、知っている農家の方でも「申請はインターネットのようなのでやめた」とか「若い人でも仕事が忙しくて暇がなく、申請していない」このような返事が返ってきました。

かなり前のことですが、ある人は某所に電話で申請方法を相談したら「申し込みは1人もいないが電話番号だけは教えてあげますか」と言われたそうです。私自身、大概の農家がこの支援策に該当すると聞いていたので、1人でも多く教えたらいいのかなと思い、知人に話してみたが、あまりいい反応は示しませんでした。

いつの日か忘れましたが、地元紙で県南地域の違法受給の記事が報じられ、その影響なのか宣伝が行き届かなかったからなのかと自分自身は人様に知らせることは余計なお世話かと思いい、知らせるのはやめました。

年末に入ったころ1月15日まで、申請が延長されたことを知ったので、知人にだめ元でも正月明け、休みに入るので正月明け申請してみようとは話していました。

そしたら後日「給付金の振り込みされたよ」という報告があり、内心ほっとしました。

そこで伺います。遠野市の農家の方の持続化給付申請、どれくらいの方の受け付けがあったのか分かりましたら教えていただけます。

また、農家の皆さんは原則インターネット申し込みに対し、大変戸惑ったのではないかと思います。窓口や電話でどのような相談が寄せられたか、その中で何か問題等はなかったか併せてお尋ねします。

次に、国民健康保険制度ですが、これは、私が議員になる前、アンケート調査で高い国保だなというアンケートが凄く寄せられた初めての質問を取り上げましたが、大変でした。

ここでは特に子どもの均等割り国保税の軽減についてお伺いしますが、2018年12月で先ほどお話ししたように取り上げましたが、再度質問させていただきます。

その当時、その年の4月からそれまでの市町村に加え、都道府県も国民健康保険制度を担うことになり、これは市町村が一般会計から国保会計に繰り入れて行っている自治体独自の国保税軽減をやめさせ、保険税に転嫁させることにあったと記憶しております。加入者の所得が低い国保が他の医療保険より保険税が倍も高く、負担が限界になっていることが国保の構造問題だとして、当時、全国知事会、全国市長会、全国町村会の地方団体が「国保を持続可能とするためには被用者保険との格差を縮小するような抜本的な財政基盤の強化が必要」と主張していました。一番いいのは、一律、都会と田舎と格差がないような、そう思います。

そして来年ようやく2022年度より、皆さん御承知のように今現在子ども一人ひとり負担していた均等割を未就学児に対して5割を国で軽減することが決定されました。

北海道のある地区では、3町が広域連合を作り、国保や介護保険の運営を実施している所の例ではございますが、21年度から18歳以下の子どもの均等割り、いわゆるそこでは1人平均2万1千円ですが、国の制度開始前に先駆けて2分の1に減額し、前倒して実施のほかに、さらに高校卒業時までには拡充し、国保に加入する子育て世帯へ支援を行う、このようにしているそうです。

また、岩手ではお隣の宮古市においては、ふるさと納税の活用で子ども均等割が免除されたそうです。

当市において、前に低所得者の世帯所得に応じて7割、5割、2割の軽減措置があり適正に判定することで加入者の負担は軽減できると、

このような答弁をいただきました。

そこで伺います。今度始まる2022年4月から始まる国の制度では、学校に入る前の未就学児だけに対する子どもの均等割り軽減ですが、これについてはどのような捉え方なのか、市長のお考えをお聞かせください。

また、今後北海道の例のような高校卒業時まで前倒ししての独自補助の検討の余地があるのかどうか伺います。

次に、福祉灯油などの独自補助についてお尋ねします。遠野の寒さも一段と厳しい季節となりましたが、この寒い冬を乗り越えるにはこの家庭でも灯油は欠かせません。しかし、灯油価格が上昇し節約している御家庭もたくさんいると思います。

これまで何度かひとり暮らしの方に、福祉灯油配られた経緯がありました。

先月12日、総務省は自治体支援策を発表されたと伺っております。中身は生活困窮者に対する灯油購入時の補助、養護老人ホーム、障がい施設、保育所、幼稚園等を対象として地方公共団体が原油価格の影響を受けている生活者や事業者の方々を支援するために行う原油価格高騰対策に対し特別交付を講じる、このようなこととございます。

暖房費高騰分の補助について、当市においては具体的な計画があるのかお尋ねいたしまして、1回目の質問といたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） おはようございます。本日もよろしくお願ひいたします。

今、ナミビアで新たな変異株が発見されて、これが感染しつつあるというお話をされました。私の友人で、ナミビア、スーダンで医療活動をしている医者がおります。無医地区に、そして水を安全にしていくと、こういう活動です。彼もたびたび遠野に来ております。彼から連絡があつて「この状態で帰れなくなった」と。安全を願っているんですけれども、その彼は「風に立つライオン」という映画、御存知だ

と思うんですけども、そのモデルになった男で、遠野が大好きで、日本に帰ってきてもちろん2週間様子を見て、結構まめに遠野に来てくれます。何故かやっぱ大好きだということでした。今の、お話しで彼の事も思い出しました。

本当に大変な状況になっているということは共通の認識でございます。コロナ感染拡大に関してそうです。経済に関してそうです。生活困窮者のサポートに関しても同様です。

その中で持続化給付金という、まず最初のご質問でした。これは、令和2年1月から12月のいずれか1月の事業収入が、令和元年度の平均月収の50パーセント以下であることというのが一つの基準になっております。

この申請に関して調べましたところ、県や市町村を経由しないで国のほうに直接の申請となっていると。担当者の方からもうその状況の確認をしたのですが、個人情報ということで教えてはいただけなかったというのが実際のところとございます。ただし、現在の商工労働ワンストップ相談窓口のほうに、この御相談をしていただいた方が55件ありました。やはりインターネットの使い方、この辺が難しくその辺をお話ししながらのことだったということとございます。

インターネットの普及、申請もインターネットになって行きます。この辺の講習会、これは昨日小林議員からも御提案いただいたように、しっかりと普及をしていかなければいけないと改めて感じております。

次に、国民健康保険税における未就学児の均等割りに関する御質問だったと思います。

これは、軽減措置が令和4年4月1日から施行されます。そのために遠野市市税条例の一部を改正して、令和4年度分から国民健康保険税に適用する準備を進めております。令和4年度の予算と合わせまして、令和4年3月市議会の定例会に提案をしたいと考えています。

やはりこの、その他にも拡張できないかということもありましたが、国民健康保険に加入する子どもたちの世帯、この負担が軽減が図れ

るということは、本当安心して暮らせるという一つの条件だと改めてこれも考えております。

また、もう一つそれに対しての前倒しということでしたが、4月からということ、4月から確実に実施するというのを念頭に置きまして、前倒しというのは現在のところは考えておりません。

次に、生活困窮者に対する灯油の購入の補助についてという御質問だったと思います。米価の下落、灯油に関する価格の高騰、これはやっぱりこの厳しい経済状態のなかで打撃であることはもう間違いありません。

これまで、生活困窮者世帯の経済負担を軽減するための「冬のあったか応援事業」、これは確実にやってまいります。この事業は非課税世帯のうち65歳以上の高齢者世帯、障がい者のいる世帯、ひとり親世帯で一律5,000円を給付するというもので、一般会計補正予算、これに計上させていただきます。実施時期については、4年1月からの支給を目指します。

それと、施設に関することですね。養護老人ホームに対して支援でございますが、入所者1人に対して月額1,000円を支給。11月から3月までの冬期間は入所者1人に対して、加算月額を6,080円として支給いたします。

児童福祉施設においても、冷暖房費加算さんとして児童1人当たり月額1,240円が加算されます。

これはすでに皆さんご存知のとおり遠野市では制度化されております。

そのほかコロナ禍における特養老人ホーム、障害者施設、保育所、幼稚園等の支援については、週1回ヘルパーを派遣して消毒そのほかの感染予防に既に努めております。

さまざまなお言葉の中にさまざまなことがありました。

「政治とは腹一杯食ふこと」これはやっぱり幸せを感じるということなのかなと私は理解しました。

そして家族農業、昔からそうだった。これからはやはり家族農業っていうのは、あったか

くて理想的なもんだなというふうに思います。そのために、そうできるように何をするかっていうことがわれわれに課された課題で、私も各戸をお話しを聞きながら歩いているときに、農家が朝から晩まで一生懸命働いている。90過ぎたおばあちゃんも草取りをしてる、この光景本当にあったかいけれども、本当に胸を打つものだったと思います。

やはり親切に進めていく、情報は国の情報であっても遠野市も積極的に発信して、市民が使えるようにという配慮をこれからも続けていこうと思いました。

家族とは大事だなということを改めて感じたんですけども、今日、私青いバッチを付けさせていただいておりますが、これは北朝鮮人権侵害問題啓発週間っていうのが今度12月10日から16日まであります。

その家族を拉致された家族を思う方々、本当に何10年も心配な状態が続いているなど、改めてただいまの佐々木議員の質問の中で家族農業とそのあったかさを思う言葉から、このこともちよっと御紹介させていただこうかなと思いました。

○議長（浅沼幸雄君） 5番佐々木僚平君。

〔5番佐々木僚平君登壇〕

○5番（佐々木僚平君） ただいま、さまざまな御答弁いただきましたが、3点についてちょっと要望になるか質問になるかその辺判断していただきますが、家族農業の位置付けでは岩手県も市長が言われるように、豊かさを実感できる農業が重要であると、このように述べていますし、農業形態の97パーセントが家族経営であります。

そして農業生産、農村の多面的機能、これについても重要な役割を果たしていると思います。

新規就農者、小規模。私の実家もそうでしたが、兼業農家の多くの形態が生産活動に関わっております。

コロナ禍で収入が落ちても、職や地域を守り、農業を頑張っている人たちの持続化給付金、

1 回限りの寄付ではなく、県や国への要請などやっていたきたいと。この先ほど話した国連の方針、まだ続いているわけでよろしくお願ひしたいものです。

2 点目の均等割減税については、そもそも収入がなくても子ども 1 人に対して、あの当時 1 人 19,400 円と記憶しておりましたが、家族の人数が保険料に、協会健保の場合は影響しないんですが、前後します。国保はそれに対して先ほど言ったように一人ひとりに対して子どもに人数割りにされて、これは子育てに逆行すると思います。

2015 年に国と県、協議してそれからようやくここに来て支援が始まると、このような実態でございます。

三つ目の福祉灯油の独自補助についての件ですけれども、とにかく遠野は本州で一番寒い地域です、せつかく総務省が呼びかけて自治体支援策とこのようになっていきますので、先ほど言いましたように 1 回きりじゃなく、しつこいくらい国や県に要請すべきとだと思ひます。さまざま遠野でも、あったか事業とかヘルパーで幼稚園保育所回っていると、このような行動を起こしているというお話しでしたが、できるだけ多くの方に届けられるよう願って、質問を終わります。質問というか要望も入ってます。すみません。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ただいまの要望、しっかりと意味をかみしめて、今後の市政に活かしつつ、国に要望することは要望する、そういう姿勢をとっていきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 5 番佐々木僚平君。

〔5 番佐々木僚平君登壇〕

○5 番（佐々木僚平君） 以上をもちまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（浅沼幸雄君） 質問者席消毒のため、暫時休憩いたします。

午前10時35分 休憩

午前10時36分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に進みます。9 番瀧本孝一君。

〔9 番瀧本孝一君登壇〕

○9 番（瀧本孝一君） 会派「遠野令和会」所属の瀧本孝一であります。今定例会一般質問の最後、12 人目の質問者として初めて新市長に一般質問をさせていただきます。

一昨日や昨日の一般質問の質疑の答弁の中で、令和会という会派や単語に対する新市長の反応に少しびっくりしましたが、その看板を背負いながら、まずは、先般 10 月 17 日 投票の市長選挙におきまして、4 年前から目指されていた市長の座に就かれたことに対し、私からも敬意と祝意を申し上げます。

さて、本定例会初日の所信表明演述で、多田市長は市政課題への対応とまちづくりの基本方針の中で、公約として掲げた「市民の命と暮らしを守る」実現のために五つのビジョンが示されました。

安心して暮らせるまち、市内で経済循環するまち、みんなでつくる福祉のまち、人の可能性がひろがるまち、そして風土を守り継承するまちの五つの中身について述べられました。

これらの公約をどのように実現されていくのか、市民の 1 人として興味深く注視していきたいと思ひますが、所信表明の中で市政運営の考え方のところでは、言葉をそのまま引用させていただきますが、「第 2 次遠野市総合計画の基本理念である、『遠野スタイルの創造・発展』を尊重し、その実現に向けた取組の推進により、持続可能なまちづくりによる『永遠の日本のふるさと遠野』の実現を目指してまいります」と話されました。

また、むすびの部分を引用させていただきますと、「平成 17 年 10 月に新遠野市が誕生して以来、16 年の長きにわたって遠野市政を築いて来られた本田前市長が、現在の遠野市の礎を築き上げるとともに、遠野市総合計画の基本理念

である『遠野スタイルの創造・発展』に向けてひたむきに取り組んでこられました。その功績に改めて敬意を表するとともに、私もその理念の実現に向け、引き続き遠野市総合計画の推進に取り組んでいく所存であります。」と表明されています。

ある意味において、この取組姿勢は前本田市市政の継承とも受け取れ、安心できる部分でもあります。これまでいわゆる箱物といわれる建物整備への批判や、中心市街地活性化のための取り組みに対する過大投資とか、道の駅遠野風の丘やふるさと公社・商社への投資批判、あるいは危機的財政と煽るような批判、そして大規模太陽光発電事業の濁水対応への批判などなど、あれほど市政刷新を訴え、前本田市市政の批判を繰り返されてきた多田市長の所信表明に、「何だ、これまでと変わらないじゃないか」と落胆された支持者も多いのではないのでしょうか。

「遠野スタイルの創造・発展」の取り組みに敬意を表し、理念の実現を継承・継続されるという旨の表明は賢明であると尊重はしますが、しからば先般の市長選挙の争点はどこにあり、刷新という言葉の重みは何だったのかということになり、これまでの多田市長の言動を鑑みる時、すんなりと受け入れることが出来ないのは私だけでしょうか。

その上で、合併時人口わずか3万3千人ほどの小さな田舎の一地方自治体の本市を、全国初のどぶろく特区や、東日本大震災・大津波の沿岸被災地後方支援拠点基地としての官民一体となった被災地支援のあり方をはじめとして、さまざまな面で霞が関はもとより全国にその名を知らしめ、注目されながら遠野市を築き上げて来られた本田前市長の功績を大事にしながら、これからの遠野市の舵取り役として、大いに手腕を発揮していただきたいと思います。

さて、若干前置きが長くなりましたが、初めて新市長への一般質問ということで緊張をしております。

一昨日からこれまで新市長のこれからの市政に対する取組みへの様々な角度からの質疑が

交わされて来ました。答弁3日目の12人目となると余裕かも知れませんが、最後の質問者として私からも次の大項目2点の質問をさせていただきます。

1項目めは「危機管理の認識について」、そして2項目めでは、「多重苦にあえぐ農家支援について」のテーマで、一問一答形式で答弁を願うものであります。

それでは通告に従い大項目1点目の「危機管理の認識について」と題した質問に入らせていただきます。

市長は「市民の命と暮らしを守る」という公約を掲げて先般の選挙で当選されましたが、常日頃の自分自身の行動を含め、自治体の首長・トップとしての立場と責任から目に見える・見えない、予想出来る・出来ない等、現実起こった非常事態はもとより、そのような非常事態に陥らないような予防や回避策を常に模索しながら自然災害をはじめ、あらゆる危機を想定して市民の命と暮らしを守る責任と、万が一何らかの危機に陥った場合、その対応や指揮をしなければならない立場にあると私は思っています。そのような観点から、順次伺って参ります。

地震・台風・風水害等の自然災害、また2年に及ぶ新型コロナウイルス感染症のような疫病まん延や、IT社会の高度複雑化によるサイバーウイルス攻撃等の情報漏洩など、私たちの生活は常に何らかの危機に晒されています。

市民の命と暮らしを守る立場のトップとして、いつ起こってもおかしくない時代の中で、市民生活を脅かす危機は多様化・複雑化して来ていますが、これらの多様化する危機に対する本市の基本的な対策や現状の認識と市長の考えについて伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） ただいまは、瀧本議員から少し長めの緊張感のある励ましの言葉をいただいたというふうに受け取っております。

昨日も一昨日もお話しをさせていただきます

した。計画というのは市長が1人で立てるものではありません。覚えていらっしゃると思いますが、そのことは十分に尊重した上で社会状況に合わせた変化をしていかなければ成り立つものではありません。私はそのことを申し上げておりますのでお間違いのないようお願いしたいということと、批判と意見は違います。とかく自分の意にそぐわないことを言うと批判と受け取る方もいらっしゃると思いますが、ここには重要な意見があるということの一つ忘れてはならないこととしてお話をしたいと思います。

また、箱物批判、外山の太陽光ですか濁水の批判というふうにお話しをされました。箱物は全てがだめという否定ではありません。必ずいつの状況でも必要なものは必要と、工事全般に関して同様のことを言えます。やるから、批判をするからそれはやらない、ということではありませんので、これもお間違いのないようにしていただきたいと思います。

また、これからお話しする防災、地震、台風、風水害、疾病まん延、情報漏えい等の対策等ということですからお話ししますが、外山太陽光発電の濁水はこれ批判ではなくてそこに問題があるから問題の指摘をしたということです。

瀧本議員も地域の住民の前でいろいろお話しをされてきました。住民が安心して暮らせるための一つ、瀧本氏自身が御質問されてる中の答えがそこにあります。開発による土木工事の不完全さによって地域住民に危険を及ぼすようなことについては、当然断固として対策を求めべきだと思います。私は瀧本議員がこれに関してと一緒に勉強していただいて、危険にどのように対処するかということを考えるべきだと思いますので、そのことは強く申し上げます。なお、12月10日にこのような土木、情勢それによる雨水の調整の技術、考え方、この勉強会を開催しますので、ぜひ皆様にもその勉強会と一緒にいただければと思います。

瀧本議員は、本田市長をこよなく尊敬し常に議会の中でも本田市長をほめたたえる御質問を繰り返し行っていらっしゃいました。その中

で地域住民、経済これらの発展的な御提案もしくは御指摘、これらがもっともっと本来はあったのだと思いますが、現在の遠野に山積する課題、これは本田市長1人で作ったことではありません。もちろん私もその功績を尊敬していると申し上げてるわけです。

しっかりとこれまでに山積した課題、これを一緒に解決していただきたい、そして遠野市をよい方向に導いていただきたいと思いますので、私も同じように緊張感を持って、少し長くなりましたが答弁を始めさせていただきますと思います。

本市は、東日本大震災の際にも本当に防災拠点として全世界から支援する人たちを呼び、そして自衛隊、警察各関係者の方々も遠野市を拠点として震災活動を行いました。これすばらしい取り組みでしたし、遠野市民も本当に当たり前のことのように支援をしていました。熱いご飯を握っておにぎりを作る、泥だらけになった長靴を洗う、本を洗う、写真を整理する、物資を配る、本当にすばらしい、遠野市民って凄いです。私も思いました。遠野に来てくれる方々も本当にすごい人達多かったです。そのことが私たちが遠野まごころネットを作って活動する原点でありました。思い出します。

その後にできました市の防災総合センターは、72時間さまざまな対応ができる。非常発電装置ですね、それから免震構造これもすばらしい。世界中から私の交友関係のある方々が遠野に来ます。ほぼ毎回私は防災センターに案内してその免震装置見せていただいております。遠野の自慢ですね。これがゆくゆく医療やその他のことにも生きていくと私は考えています。

地区センターも本当にすごかったです。今も毛布、非常食と対応できるようになっております。

このたびは風の丘に関してもそうですね、防災道の駅ということで指定されます。

ハザードマップに関しましては若干変わりましたですね。ですから、その認識を変わっていますよということは市民の方々に何回かお知

らせした方がいいかと思っていますので今回もお話をさせていただきます。危険区域と危険箇所の捉え方が変わりましたし、浸水区域に関してはその深さが変わっております。もう一度遠野の防災体制を見るときに、その辺も確認が必要かと思えます。

また、過去の経験を生かして遠野市は県や関係機関とも協定を結んだり、業務の継続、これらを計画したり、大規模災害に迅速に対応できるようにやっております。

これから私も市長の立場でどのように対応していくかと、そのシステムの確認訓練をさせていただきます。

さまざまな状況においては機能が停止する可能性もあります。しかし職員は市の行政サービスが停止しないように計画をしっかりと作成しております。やはりここは防災遠野という観点からすればすばらしい心構えだと私は思っています。

一方で、人の命と暮らしを守るという中には先日も申し上げましたが、リスクマネジメント、当然必要ですが、暮らしを守るということも必要になってきます。

また、申し上げますが、これが時には相反する場合があります。これをにらみながら、皆さん、個人そして組織、会社、一緒にリスクマネジメントをしながら進んでいかなければならないと私は思っています。

情報漏えい等に関するご質問もありました。これもしっかりと大事なことですから守っていかなければなりません。昨日もどなたかからその情報に関する御質問あったと思います。

今、個人情報、先ほどの佐々木議員の答えにも個人情報保護のために件数等お答えできないという話もさせていただきました。このことについてはシステム全体の中からその安全体制の確認を始めたいというふうに考えております。

長くなりましたがどうぞよろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 批判と意見は違うと、そして世の中に合わせていろいろな変化に合わせて計画なんかも見直していくと、それは当然のごく当たり前のことと私も認識しておりますし、いろいろな御指摘いただきましたが私もそのとおり謙虚に受け止めたいと思います。まず、危機管理のトップとしてがんばっていただきたいと思えます。

次の質問に移ります。地震や台風等の自然災害については、被害を最小限にとどめ、人命を守ることや二次被害を防ぐことが最優先されることは明白であります。疫病まん延については一自治体で対応できるものではなく、国の対策が極めて重要であり、医療体制の確保が不可欠です。

ここで私がお尋ねしたいのは、情報漏洩の危機管理において当市のITシステムはランサムウェア、いわゆる身代金ウイルス攻撃等に対するサイバーセキュリティは本当に大丈夫なのかという質問であります。

先般マスコミで大きく取り上げられました。四国徳島県西部の人口8,000人ほどが暮らすつぎ町という田舎の町立病院が、ランサムウェアによってデータを盗まれ暗号化されて電子カルテや会計などの全てのシステムがダウンし、一人ひとりの患者さんからこれまでの病歴や薬の種類などを聞き取り、紙のカルテを作り直さなければならないという事態に陥って大混乱の状態が続いているということです。

病院の医師は「なぜこんな田舎の病院が狙われたのか」と嘆いているそうですが、多田市長はこのような事案を把握・認識されているのか、そして当市のランサムウェアに対するサイバーセキュリティ対策の現状を伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 非常に現代社会では重要なことだと認識しています。先日もSMCの社長さんとお話しました。1日5,000件サイバーアタックあるそうです。ものすごい数ですね。これ他のやや小さな会社も確認しました。

やはり私の友人の会社でも500件ほど1日にあるそうです。これをわかってるということはその対策も取っているということなのですが、これは相当の費用がかかっているということでした。

その病院の話これもニュースで聞きました。われわれも注意していかなければなりません。

医療についてもカルテを共有しようという話も進めているところでございます。これは本田市長が積極的に進めていた事業でございます。これらを進めるに当たってもその情報のセキュリティ、これは本当に大事なことだと思います。

先ほど私少し申し上げましたが、遠野市の個人情報の保護の状況、またそのシステムの状況。このあいだ地区センターに行きましてインターネット電話もしてみました。小林議員からも地区センターとの交信云々、こういうふうに合理的に迅速に進めてはどうかという御提案もいただきました。それらを実行していくについても、このことを前提にしていかなければならないと思います。ですから、私は現在しっかりした対策が必要、認識が必要、私のレベルでは現在のところ、そこです。

次に、その情報の保護システムがどの程度安全なレベルにあるかということは私のみならず皆様にも知っておいていただく必要がありますので、しっかりと共有していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 10分間休憩いたします。

午前11時01分 休憩

午前11時11分 開議

○議長（浅沼幸雄君） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

引き続き一般質問を行います。9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 次に、クライシスマネジメントとリスクマネジメントの違いと職員等への周知についてお尋ねをいたします。

私のつたない頭の中ではおおよそのイメージ

は何となくという程度であり、具体的にはと問われたとき確信をもって答えられる自信がありません。ここの区別をしっかりと認識をしておかなければ普段の危機管理やいざというときの対応に迷いが生じたり混乱を来たすことも考えられますので、職員への周知や研修はもとより、市長自身のマネジメントが問われることになると思われまますので、それについての御見解をお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） リスクマネジメントとクライシスマネジメントっていうのは、東日本大震災が終わってからさまざまなその言葉が横文字になってる言葉でございます。

リスクマネジメントっていうのは、その危険を考えて予防しておく。例えば何で説明しましょうか、例えば経営で説明すると「資金繰りが大変ですよ」「そうならないように計画的な資金繰りをしていかなければなりませんよ」、そしてこれは何年間の間にはどういうふうな、要するにマネーフロー、キャッシュフローになっていってことなるんですけど、これを予測して悪い方向に行かないように考えていくのがリスクマネジメントです。

クライシスマネジメントっていうのは、なってしまったと、「まずい明日お金がない、さあどうしようか」、その対応を現実的にしていくことがクライシスマネジメントです。分かりやすく言えばですね。

これがいろんな世界、部分であるんですけども、問題はリスクマネジメントはそこまでであって、クライシスマネジメントはここからですよっていうことではないってことです。

常にクライシスマネジメントをするときには、次のリスクを考えながらマネジメントしていかなければいけないところです。要するに災害であれば、それからまた災害災害ってくる場合もあります。そこに備えつつ対応する、そしてどこをどこからどこまでリスクマネジメント、どこからどこまでクライシスマネジメント、例

えばお金がなくなるまではリスクマネジメントで、なくなったらクライシスマネジメントこういう分け方だと、もう手遅れ、どうにもならなくなるんです。ですからクライシスマネジメントってというのは5年先にお金がなくなるよって言ったら今からそれを対応していくこと、つまりその路線にあるわけですから、5年先見据えてクライシスマネジメントは始めなければいけないということです。

これを職員にということですが、職員の多くの方は普段そういう姿勢で担っています。例えば私が「前倒してこういうふうにこれしたい」「ちょっと待って下さいよ、これをこうやると次こうなってってこうなりますから、あと何か月我慢できるもんならそこからやりましょう」とかですね、そういう助言を私にします。これはリスクマネジメント、クライシスマネジメントを考えたリスクマネジメントだと思ってます。改めてその言葉としては周知をいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） どちらも危機管理ということについては、共通する部分が大きいです。

次に、リスクマネジメントがしっかり機能して、クライシスという事象が発生しないことに越したことはありませんが、それは不可能なことであります。

現代社会は地球温暖化の影響や世界全体のボーダーレス化などにより想定外と言われるクライシスが発生することは、異常気象やコロナが示しています。万が一そのようなクライシスが発生した場合、様々な事象に対応しなければならない自治体のトップである首長の指揮命令は非常に重要であると考えます。その認識について伺いをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） その通り重要、市民の命と暮らしを守るためには最重要なことだと思います。最重要なことの一つに市長としての私

の心構え、これもあると思います。

何か起きた場合、その場合には私がしっかりと責任を持って陣頭指揮します。私に何かあった場合は、副市長が当たります。その体制をしっかりと取りながらマネジメントにしていきたいと思います。

自然災害はいつ起こるかわかりません。そのときに重要なのは適応能力、対応能力これは状況に対応するということと状況に適応して、これもリスクとクライシスみたいなものです。適用してくってという考え方にしなければいけません。ですからそこから何をどういうふうにしていくか、対策を取るだけではなくて対策をしながら適用していく、次のステージに適用していく、ここまでの考えを持って対応していくようにしようと思います。

それから一つは、自然災害それとも人為的災害、自然災害はこれまでも多く経験しました。28年の10月だったでしょうか台風もありました。このときも遠野市はしっかりと防災、強いところを見せながら対応したと思います。われわれNPO、市民も同じようにサポートをしあっていたと思います。すばらしい対応能力だと私は思っています。

ハザードマップも再確認していただくというのはその一つです。同時に先ほども申し上げましたが、開発の仕方、雨水の調整の仕方、市の財産の管理の仕方。例えば開発によって川に水が流れます。その川を管理するその安全基準、安全のための管理の方法、しっかりとこれは学んでいく必要があります。そして対策を取っていく必要があります。

「なってからは遅い」これがリスクマネジメントでもあります。そのことをしっかりと行動で示すために12月10日に防災につながる勉強会をしますので、ぜひ御参加をお願いしたいと思います。その上で、遠野市の開発というのはただ「だめだめ」「反対」ということでは社会は進みませんので、しっかりと安全を担保した上で進めていくということも考えなければなりません。

そのためには遠野市がしっかりとした基準を作成していくと、これも必要になります。後ほど、すぐということではありません。これから皆さんと意見を重ねながらそういう基準も作成していきたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。いずれにしてもリーダーとして市民の安全を第一に考えて行動、指揮をしてまいりますのでよろしくお願ひします。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） その言葉を聞いて安心をいたしました、12月10日はまだ議会の最終日ということだと思いますけれども、出席できる時間帯であれば私も思いました。

前の質問にも重複するかもしれませんが、市長は公約に「市民の命と暮らしを守る」の実現のために五つのビジョンを掲げましたが、先般の所信表明の中では市政全体の危機管理上の観点からは自治体のトップとしての決意というかメッセージはほとんど感じ取ることが出来ませんでした。私だけだったでしょうか。

多様化・複雑化するクライシスにいかに関わり、いかに関わり市民の命と暮らしを守って行くのか、その決意と認識を再度お尋ねをいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 今の御質問のところで、クライシスの対応とちょっと言葉が聞き取れなかったものですから、そこの所を議長お願ひしたいと思っております。

○議長（浅沼幸雄君） 瀧本孝一君、もう一度その所を質問していただきたいと思ひます。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 多様化、複雑化するクライシスにいかに関わり、いかに関わり市民の命と暮らしを守っていくのかという質問でありました。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

○市長（多田一彦君） どちらかという多様化するリスクだと思ひますね、クライシスとい

うよりは、それで多様化するリスクに対して、どういうふうに関わりクライシスマネジメントをしていくかという理解でお話しをさせていただきます。

多様化するクライシスっていうのは、つまり対応が多様化してく、これは当たり前のことなんですけども、今の御質問の流れからするとおそらく多様化するリスクに対してどういうふうに関わりしていくかということになると思ひます。

リスクは本当に多様化してますね。「これに対してはこれ」「これに対してはこれ」っていうのは細かくあります。ですからそのリスクに関するマネジメント、これについては細かく想定を上げていった方がいいと思ひます。

ただし、その対応については画一的ではないし、先ほども申し上げましたが対応と適応、その時の状況に対応する能力そして適用する能力が重要だと思ひます。財政であれば財政。防災、自然災害、人的災害、そういう土木系であれば土木系さまざまな状況。それと福祉。例えば要介護者の方が施設に入れないで家にいる。議員のそばにもそういう方がいらっしゃるかもしれません。そういう方、万が一、危険近づいてきたときにどういうふうに関わりするか。これらはその人だけではできませんね。ですから地域でも普段から話をしていく、どういうふうに関わりをするか、地域のケアをどういうふうにするかってことも話をしていく。これがリスクマネジメントで、そのために動くこれがクライシスマネジメント。リスクマネジメントの一つですけども、クライシスマネジメントがだめになっちゃったどうしようってことがないようにする、クライシスにならないようにするっていうのがリスクマネジメントなので、そういうふうな形になろうかと思ひます。明確にされていないというのは瀧本議員だけの感覚ではないと思ひますが少ないと思ひます、正直に申し上げます。

私の第一のテーマが市民の命と暮らしを守ることですから、ここに大きく強調させ

ていただきました。

その他の状況対応、ケースに関してはケースバイケースでその都度お話しをさせていただきたいと思います。

いずれにしても市長の危機感というのは私個人だけではなくて、市民皆さんの危機感を肌を感じながら危機対応にいつでも動ける心構え、準備をする、体制としても準備をする、こういうことだと私は思っています。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 分かりました。

次の質問に移ります。コロナ禍における市長ご自身の行動の危機管理についてお尋ねをいたします。

新型コロナウイルス感染症が2年前に中国武漢から全世界に拡大するパンデミックとなり、私たちの日常は一変しました。

4、5日前の統計では、世界237の国と地域で、総感染者数は2億6,356万人余、総死者数は523万人余となっていて、今も1日当たり約65万人の新規感染者が出ているとのことであります。

日本国内では、12月4日の時点で感染者数172万7,000人余、死者が1万8,000人余というNHKがまとめた数字であります。まずはこの実態や数字を市長はどのように捉えられておられるのでしょうか伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 非常に大きい数字だと思います。私個人としてという御質問でした。私個人でよろしいですか。

○議長（浅沼幸雄君） 市長としてという質問です。

○市長（多田一彦君） 市長として。個人の管理を市長としてどう思うかっていうことでよろしいですか。

○議長（浅沼幸雄君） 反問。

○市長（多田一彦君） もうちょっと分かりやすくお願いします。

○議長（浅沼幸雄君） 今の市長の発言の意図は、瀧本孝一君は分かりましたか。それでは瀧本孝一君、そこの所をもう一度質問してください。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 先ほど数字を申し述べましたが、この実態や数字をどのように市長は捉えておられるかということです。個人的な見解でもよろしいですけれども。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

○市長（多田一彦君） すいません、その前段で個人としてという話が、ワードが入っていたのでどういうふうにお答えすればいいかってのをちょっと考えておりました。

これは大きな数字です。まん延も防止しなければいけないという大きな数字だと思います。その努力の結果、市民のリスクマネジメントの結果、遠野では幸いにも少ない発生件数になっているというふうに思います。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 市長の答弁時間が30分を超えたようで、あと答えていただけるかどうか分かりませんが、次に、市長は就任後の先月11月16日の火曜日から11月19日の金曜日、午前までの3泊4日の日程で全国市長会等に係る出張ということで東京に出張しておられるはず。間違いはないでしょうか。国会議員を表敬訪問したり、省庁に挨拶回りをしたようですが、なぜかJICA事務所には16日と18日の2回も訪問し、その他にも市長選挙への御礼と思われるような節のある3泊4日の出張ではないかと思うのは私だけでしょうか。しかも私がネットで知り得た情報では17日、18日に全国都市会館で市長フォーラム等の会議はあったようですが、多田市長の出張日程には組み込まれていないように見受けられました。

首長としての出張自体は否定するものではありませんが、副市長も不在の段階で総務企画部長なども全行程ではないにしろ同行させ、コロナ禍が完全収束を見せないなか、遠野市の司

令塔が3日も4日も不在になるという事態が危機管理上どうなのかという市長の姿勢に不安を覚えるものであります。

何もなかったから問題ないという見方もあると思いますが、先般の東京出張に際し、市長は副市長不在の体制でどのような危機管理上の体制や対策を講じ、万が一の事態が起こった場合に対処しようとなされたかについて、具体的な説明を望みたいと思います。

○議長（浅沼幸雄君） ただいま質問者のほうから、市長の答弁時間が過ぎているが答弁いただけるかどうかという発言がございましたが、あくまでも参考の30分という考え方で質問者の質問がまだ残っておりますので、市長には答弁を続けてやっていただきますが、できるだけ市長の意思を伝えながらも簡潔な答弁でお願いしたいと思います。多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） いろんな理解の仕方があるんだなというのは、前にも申し上げました。

遠野市のために市長会、これは大事なことだったんだと思います。コロナ禍においても一つの会場の中に1,000人を超える市長が集まっております。それも国会議員の方も一緒でした。一つ席を開けるというようなことはありませんでした。東京でした。私も驚きました。しかし重要なことなんでしょうと思います。

そして、これは出発以前に事前に綿密に打ち合わせをいたしました。回るべき所、手分けをするべき所、全てを私がやるという気持ちは毛頭ありません。チームで遠野市の市政を担ってまいります。もちろんそのチームには瀧本議員も入っているわけです。その中でどうせ同じ旅費を使うなら有効に動きましょと。JICAという名前が出ていました。遠野市が東日本大震災の時にどれだけ助けられたか、活動で。今もJICAの方々には研修等でやってきます。すみませんが少し長くなりますね。でも今のような御質問にはしっかりとお答えしなければいけないと思いますので御容赦願います。

私は、JICAの組織からさまざまな支援

をいただこうと考えています。それについては総務部長他、相談をしております。そのためにお願いに行きました。それと、ほかの団体にも参りました。JICAに2回というよりは笹川平和財団という所にまいりました。これも東日本大震災の際に相当のサポートをいただきました。理事長さんが変わられました。理事長さんは後藤新平の大ファンで著書もあります。こちらにも福祉の面で遠野市は日本財団ももちろんですがお世話になってるはずですよ。相当の車両が走ってるはずですよ。さらに私は車のお願ひもしてきました。これらを手分けする、一つの体で全てはできません。

また、議員の皆様の中には海士町という所にも行ったことがある方がいらっしゃるんじゃないでしょうか。すばらしい教育においてもがんばりをしています。私も行きました。その町長さんに会いたいと申し入れを受けました。意見交換してきました。財政難の小さな島、これからどうやって立ち直っていったか、この話も本当に感心しながら聞かせていただきました。

いろんな所と交友関係をどうするんだという御質問もいただきました。私はどんどん交友関係を進めていって必要なことは参考にさせていただきながら協力体制を取っていきたいと考えていますので、なんら恥じる行動ではないと思っています。

ただ、私も3日間というスケジュールは厳しいなと。まだまだなっただけで話をしたいこと聞きたいことたくさんありましたので、早く帰りたいとそういう思いで過ごしていたことは事実です。それで私の行動が間違っているというふうには全く考えておりませんのでお答えします。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 私はその行動が間違っているかとは申しておりませんし、聞いているのはその留守の間どのような体制を取っていたのかということでありまして。そこを間違えないでいただき、細かくは説明していただきま

したけれども、聞いたことに対してお答えをいただければと思います。

この項目でもう一つ質問を用意していましたが時間も立っていますので、大項目2点目の多重苦にあえぐ農家支援についてと題した質問に移ります。

おとといからの一般質問で、新市長に対する当市の基幹産業である農林畜産業に対する質疑がかなり交わされてきました。当市がキャッチフレーズとしている「永遠の日本のふるさと・遠野」の原風景は、山里に曲り屋や手入れの行き届いた田畑の広がる田園風景ではないでしょうか。

その田園風景は、山里が荒れ、田んぼは転作作物や遊休水田が年を追うごとに増え続ける中、中小・零細農家はかろうじて中山間直接支払制度や多面的支払制度による交付金などの恩恵を受けながら、集落景観や農地等の維持が図られていると個人的には思っているところです。

私も1ヘクタールにも満たない零細米作農家の端くれではありますが、何とか自分の水田を荒らしたくないという思いと、大げさに言えば瑞穂の国日本人としての生きる源が米であるという信念で、昨今はシカなどの獣害対策にも頭を悩ませながら自分が元気なうちとは何とかわずかばかりの水田を作付しています。

このようななかで、今年産の米の値段は60キログラムあたり2,400円から3,000円近い値下がり、米農家は大きな打撃を受けていることは御承知だと思います。加えて、原油の高騰で重油・軽油・ガソリン等の値上げ、更には農業資材・飼料・肥料等の大幅値上がりで農家は四重苦、五重苦で大変な苦勞を強いられている状況にあります。この現状の認識について伺います。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 先ほど質問ちょっと言い忘れたところがあります。聞いている聞いてないということがありましたけども、お話しされたことには丁寧にお答えしていこうというの

が私の考えですので、それを御理解いただくためのその過程プロセスだと思います。同時に議会でもこの話しが出ましたので申し上げますが、クライシスマネジメントという話がありました。クライシスマネジメントはしっかりと完結されているかどうか。これも瀧本議員にはお考えをいただきたいと思います。リスクマネジメントの話がありましたので併せてお話ししておきます。

ただいまの御質問の現場に関しまして、本当に大変な状況です。米の値段がこんなに落ちました。60キロで2,400円から2,900円。令和元年から見ると3,200円から3,600円も落ちています。本当に大変な状況だと思います。これに対して、農協さんと県と一緒に国に米価についてのサポートを申し出ていかなければいけないというのは、先日もほかの議員さんからアドバイスを頂きました。御提案をいただきましたのでそういう方向で県や農協、発信して相談していきたいと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 市長は所信表明の中の「市内で経済循環するまち」の部分で、「基幹産業である農林畜産業の活性化を図るため、『農業経営の見える化』を推進し、農業で生活設計ができるよう高収益農家の拡大を図り、新規就農の促進と、グループ化・法人化による多角化支援に努めてまいります。また将来的に遠野農業の担い手となりうる働き手の確保に向けて取り組んでまいります。」と謳っていますが、本市の基幹産業としての第一次産業の重要性の認識と、現況の農業情勢全般についての見解をお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 最も重要なことだと思います。

これまでも遠野の農業は遠野の基幹産業であるというふうに歴代の市長さんも言ってきました。永遠の課題だったはずで

これに対してどのように基幹産業に取るべき対応、この推進に力を入れてきたらどうか。計画として書くのではなくて、実際の行動としてどのようにしてきたか、このことはしっかりと検証しながら参考にして、皆さんのまた意見をお聞きしながら、農業を見える化して、経営を見える化してやっていかなければいけないと思います。

基幹産業というからには、本当に基幹産業の取り組みをしなければならないんだということを、改めて確認もさせていただきたいと考えています。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 農業経営を続けて行くには、規模の大小にかかわらずJAや農業改良普及センター、あるいは農業共済組合などとの関係が不可欠でもあります。

JAも経営効率化のもとに、支店統廃合などで農家から遠くなっているのが実感ですが、その距離を縮めるためにも、JAいわて花巻はもとより、県農業改良普及センターなどの一層の連携強化や、基幹産業のこれ以上の衰退を招かないためにも、組織間で職員の相互派遣を図るべきではないかという提案を含め、このことについて見解をお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 情報交流共有や連携強化は、もっともな話であります。

私は、10月、ちょっと日にち忘れましてので失礼しますが、農協さんと2度意見交換をしました。担当課も交えてです。お互いに。

やはり、現場に近い声、これは非常に有効だと考えています。

農済にも行ってまいりました。さまざまな話を聞きます。獣医さんの話し、いろんなところで耳にします。「遠野どうなんですか」と聞いてきました、ストレートに。いいお返事はいただいたと思っています。

また、以前はアストとという形で職員を出

し合ってたやっていたと思います。そのときにワサビが、値段が市場の中でいい位置に近寄っていた、こういう話しも聞いています。

私も市長になって即座にワサビの営業します。やっぱり供給する側の供給計画、これも必要なもので今立てていただいているところがございます。

いっその連携強化を強めてまいります、まずは職員の交換よりも情報の交換、それと課題の共有、対策の協議、これらを優先して進めていくべきだと思います。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） まず分かりました。

コロナ禍でコメの外出向け需要が低迷し、米価の大幅下落や、原油の高騰に伴う石油製品や農業資材の値上がりで農家は疲弊している状況にあります。

本市では来年の米作付農家への支援として、農協から購入する種子に対して、助成金額を本年度の3分の1から2分の1に引き上げ、同じく苗で購入する農家には新たに1箱につき200円の助成をしようとする「遠野産米次期作支援事業補助金」として、今議会の補正予算（第5号）として提案されており、農家の立場からは誠にありがたい支援策であり、感謝を申し上げたいと思っています。

また、JA花巻では米価下落に苦しむ農家支援対策として、総額1億円規模の独自支援事業として、来年の春肥料を購入した組合員に、本年産米30キログラムあたり64円80銭を来年の2月中旬に支払い、米の継続生産を支えるようとしていることもありありがたいと思います。

市長は農業が本市の基幹産業だと認めるのであれば、本年産のコメ生産農家や、重油・軽油等を使用する野菜園芸農家、更には農業資材購入農家などへの多重苦に悩み苦しむ農家に対し、これまで以上の早急な遠野市独自の支援策が求められていると思いませんか。

米作りや農業自体を辞めようとする農家が増えれば、益々耕作放棄地が増大し、基幹産業

としての農業は衰退していくことが目に見えています。

農村部の票を取りまとめたと評され、市民に寄り添う市長を標榜するならば、今こそ農家に恩返しをすべきだと思われませんが、支援の必要性について見解をお尋ねいたします。

○議長（浅沼幸雄君） 多田市長。

〔市長多田一彦君登壇〕

○市長（多田一彦君） 農家の俵を取りまとめたというの1俵、2俵ではなくて違う票のほうだったんだなと気が付きました。これは選挙の話しであって、私は市長として誰か個人、農家に限らずしっかりと話を聞いて対応していくというのが方針でありますから、改めてそういうお話しはあまり意味がないかなというふうに思います。

また、緊急、早急の課題だというお話ししました。コロナの経済の影響、これは今年始まったばかりのことではありません。

もう今年も終わりになるわけですが、私は令和3年度、10月末からの就任でございます。遠野市の今年度は4月1日から始まっております。コロナはその前年も影響がありました。

先ほど米価の価格を言いました。去年も早急の重要な課題でありました。早急な課題であれば瀧本議員からも、もっともっと積極的に昨年度からお話しをいただき、御提案をいただき、遠野市としてサポートの基盤を作る準備を昨年度からも進めておくべきであったと私は考えますが、しかし、このように対策を取るべきだという御提案をいただいて、これはありがたい、本当にそれはやらなければならない。

担当課とも話しておりますが、農協さん、国、コロナ禍における農業に関してもサポートの形が出てきました。これらをしっかりとまとめながら、さらに遠野市が基幹産業である農業にどのようなサポートができるかということを検討してまいります。また皆さんにお諮りをする事になるかと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

○議長（浅沼幸雄君） 9番瀧本孝一君。

〔9番瀧本孝一君登壇〕

○9番（瀧本孝一君） 私らもできることはやりたいんですが、議会には執行権がありませんので、そちらにお任せをするしかありません。そして私も去年から、稲の苗箱を購入している農家にも支援をしたほうがいいんじゃないかというお話しはさせていただいているつもりでございます。

私の持ち時間は、あと5分あるわけですが、ちょっと一つ割愛した部分はありますけれども、まずおおよそ答弁していただいたことに感謝を申し上げたいと思います。

今年も新型コロナウイルス感染症に振り回された1年でしたが、ワクチンの接種により、だいぶ収束の方向に向かいつつあるようにも思われます。

大リーグの大谷翔平選手の活躍に、岩手県人として誇らしく、パワーをいただいた1年でもありました。心から敬意と感謝と労いの言葉を送りたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わります。

日程第2 議案第106号令和3年度一般会計補正予算（第6号）

○議長（浅沼幸雄君） 次に日程第2、議案第106号令和3年度一般会計補正予算（第6号）についてを議題とします。

本案について、提出者の説明を求めます。鈴木副市長。

〔副市長鈴木惣喜君登壇〕

○副市長（鈴木惣喜君） 命によりまして、令和3年12月遠野市議会定例会に追加して提出しました議案第106号令和3年度遠野市一般会計補正予算（第6号）について、御説明いたします。

本件は、第1条歳入歳出予算の補正により、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ、1億8,090万4,000円を追加し、予算の総額を歳入歳出それぞれ187億5,679万円にしようとするものであります。

この補正予算は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、臨時特別的な給付措置とし

て実施する18歳以下の児童生徒等に1人につき5万円の支給に係る事業費について補正しようとするものであります。

以上で、説明を終わります。よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○議長（浅沼幸雄君） これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第106号令和3年度一般会計補正予算（第6号）については、予算等審査特別委員会に付託の上、審査することにいたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。よって議案第106号令和3年度一般会計補正予算（第6号）については、予算等審査特別委員会に付託の上、審査することに決しました。

お諮りいたします。12月9日は、委員会審査のため休会いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 御異議なしと認めます。よって12月9日は、休会することに決しました。

散 会

○議長（浅沼幸雄君） お諮りいたします。本日の会議はここまでとし、散会いたしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（浅沼幸雄君） 以上で、本日の日程は全部終了いたしました。本日はこれにて散会いたします。御苦労さまでした。

午後0時05分 散会